

# 検査部

## 1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	1 人	(1 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	26 人	
その他（技術補佐員等）	15 人	
合計	43 人	

## 2 教員の異動状況

飯野和美（助教）（H17.4.1～H19.3.31 助手；H19.4.1～現職）

藤澤朋幸（特任講師）（H22.4.1～H24.3.31 助教；H24.4.1～H25.3.31）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	17.45	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	1 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	2 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.94	

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Fujisawa T, Yasui H, Akamatsu T, Hashimoto D, Enomoto N, Inui N, Nakamura Y, Maekawa M, Suda T, Chida K: Alveolar nitric oxide concentration reflects peripheral airway obstruction in stable asthma. *Respirology*. 18(3):522-7 2013.

2. Hamada E, Taniguchi T, Baba S, Maekawa M : Investigation of unexpected serum CA19-9 elevation in Lewis-negative cancer patients. *Annals of Clinical Biochemistry*, 49(3), 266-272, 2012.

インパクトファクターの小計 [ 4.625 ]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Akamatsu T, Shirai T, Kato M, Yasui H, Hashimoto D, Fujisawa T, Tsuchiya T, Inui N, Suda T, Chida K. Switching from salmeterol/fluticasone to formoterol/budesonide combinations improves peripheral airway/alveolar inflammation in asthma. *Pulm Pharmacol Ther.* 2013.
2. Kusagaya H, Nakamura Y, Kono M, Kaida Y, Kuroishi S, Enomoto N, Fujisawa T, Koshimizu N, Yokomura K, Inui N, Suda T, Colby TV, Chida K: Idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis: consideration of a clinicopathological entity in a series of Japanese patients. *BMC Pulm Med.* 5;12:72, 2012.
3. Nakamura Y, Suda T, Kaida Y, Kono M, Hozumi H, Hashimoto D, Enomoto N, Fujisawa T, Inui N, Imokawa S, Yasuda K, Shirai T, Suganuma H, Morita S, Hayakawa H, Takehara Y, Colby TV, Chida K: Rheumatoid lung disease: prognostic analysis of 54 biopsy-proven cases. *Respir Med.* 106(8):1164-9, 2012.
4. Suzuki Y, Suda T, Furuhashi K, Shibata K, Hashimoto D, Enomoto N, Fujisawa T, Nakamura Y, Inui N, Nakamura H, Chida K: Mouse CD11b<sup>high</sup> lung dendritic cells have more potent capability to induce IgA than CD103<sup>+</sup> lung dendritic cells in vitro. *Am J Respir Cell Mol Biol.* 46(6):773-80, 2012.

インパクトファクターの小計 [ 12.825 ]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### (2-1) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）
  1. 余語 宏介, 沖 隆, 飯野 和美, 中村 浩淑 : 低コルチゾール血症を伴った下垂体機能低下症における早朝唾液中コルチゾール値測定の有用性 *ACTH RELATED PEPTIDES*(1340-4512) 23、80-82、2012。
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

#### (2-2) レター

#### (3) 総 説

#### (4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
  1. 藤澤朋幸, 千田金吾 ; 病態生理. 新しい診断と治療のABC サルコイドーシス 最新医学社, 呼吸器 3、55-62、2012。

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

**(5) 症例報告**

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Hozumi H, Fujisawa T, Kuroishi S, Inui N, Nakamura Y, Suda T, Chida K: Ulcerating bronchitis caused by cytomegalovirus in a patient with polymyositis. Intern Med. 51(20):2933-6, 2012.
2. 大石 敏弘, 飯野 和美, 沖 隆, 芝田 尚子, 中村 浩淑, 水田 邦博, 鈴木 訓之, 高澤 和永, 河野 道宏, 竹越 一博: 頭蓋底部カテコールアミン産生パラガングリオーマの一例 日本内分泌学会雑誌(88) Suppl. 52-54、2012。

インパクトファクターの小計 [ 0.936 ]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

**4 特許等の出願状況**

	平成 24 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

**5 医学研究費取得状況**

（万円未満四捨五入）

	平成 24 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	3 件	(300 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 藤澤朋幸 若手研究(B)

気管支喘息発作時における気道粘液過剰産生増悪メカニズムの解明とその抑制法の開発  
平成 23 年度～平成 25 年度 390万円 平成24年度配分 100万円

2. 飯野 和美（基盤研究 (C)）

がん転移モデルとしての悪性褐色細胞腫の解析  
平成 23 年度 ～平成 25 年度 平成 24 年度配分 130 万円

3. 山影 望（奨励研究）

ニューモシスチス肺炎の迅速診断のための定量的 PCR 法の確立  
平成 24 年度、70 万円

- (2) 厚生労働科学研究費
- (3) 他政府機関による研究助成
- (4) 財団助成金
- (5) 受託研究または共同研究

## 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	1 件
(6) 一般演題発表数	3 件	

### (1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

#### 口頭発表

#### ポスター発表

1. Hamada E, Kondoh T, Maekawa M: The recently launched sysmex XN-Series automated hematology analyzer impact on operating efficiency.  
The 8th International Conference of Clinical Laboratory Automation April 12, 2012, Seoul Korea
2. Hamada E, Kondoh T, Maekawa M: Evaluation of an automated glucose analyzer GA09 model, based on a novel COD immobilized oxygen electrode.  
The 8th International Conference of Clinical Laboratory Automation April 12, 2012, Seoul Korea
3. Kondoh T, Hamada E, Maekawa M: Renewal of automated analyzer and layout of clinical laboratory.  
The 8th International Conference of Clinical Laboratory Automation April 12, 2012, Seoul Korea

### (2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表

1. 藤澤朋幸 当院における ICT ラウンドの現状と課題. 第 28 回日本環境感染学会総会  
2013 年 横浜

4) 座長をした学会名

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 飯野和美 日本内分泌学会 評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0 件	0 件

- (1) 国内の英文雑誌等の編集
- (2) 外国の学術雑誌の編集
- (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

## 9 共同研究の実施状況

	平成 24 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

- (1) 国際共同研究
- (2) 国内共同研究
- (3) 学内共同研究

## 10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	0 件

## 11 受賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 気管支喘息発作時における気道粘液過剰産生増悪メカニズムの解明とその抑制法の開発

気道上皮細胞における MUC5AC/MUC5B 発現を相加相乗的に誘導する共刺激の検討を行った。正常ヒト気管上皮初代培養細胞 (Normal human bronchial epithelial cell: NHBE) と正常ヒト気管上皮 cell line (HBE1) を用いて、前炎症性サイトカイン (IL-1 $\beta$ , IL-17)、各種 TLR ligands (pam3csk, LPS, flagellin, CPG)、Th2 サイトカイン (IL-4, 13) を、単独あるいはそれらを組み合わせた共添加を行い、MUC5AC, MUC5B mRNA 発現誘導を検討した。その結果、HBE1 細胞において、IL-1 $\beta$ , IL-17

と TLR ligands の共添加 (IL-1 $\beta$ + pam3csk, IL-17+ LPS など) による相加的な MUC5AC/MUC5B 誘導が確認されたが、NHBE において同様の共添加による相加的 MUC5AC/MUC5B 誘導は確認されず、その誘導は細胞種により異なる結果であった。(藤澤朋幸)

## 2. 悪性褐色細胞腫の早期診断・予後予測マーカー確立についての研究

良性・悪性褐色細胞腫組織を材料としたゲノム、エピゲノム、およびプロテオームの解析を通して、本症の癌抑制因子や転移関連遺伝子について分析している。手術摘出サンプルにつき全ゲノムメチル化解析を行い、転移に関連してメチル化に変化が生じる可能性のある候補 CpG 領域を絞り込み、これらについて Methylation specific PCR 法を用いたメチル化解析をすすめている。

(飯野和美)

## 13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

## 14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

## 15 新聞, 雑誌等による報道